

原爆と原発は双子の兄弟 どちらも人類と共存できない

今も続く被爆者の苦しみ

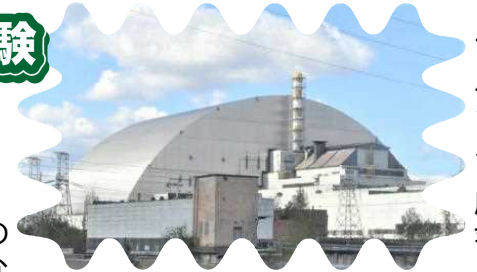
広島原爆ドーム



77年前に広島、長崎に原子爆弾が落とされました。たった1発で広島・長崎の街は粉々に破壊され、数十万の人々の命が奪われました。破壊力・殺傷力の巨大さは凄まじいものです。戦後も放射能（核分裂生成物）が生み出すガンや白血病など

の病気が被爆者の方々を襲い、77年後の今も苦しみは続いています。核兵器は、本当に恐ろしく非人動的な兵器です。

ウクライナでの体験 戦下の原発の 恐ろしさ



チェルノブイリ原発

ロシア軍によるウクライナへの侵攻で、チェルノブイリ原発などが制圧される事態が起きました。戦闘による原子炉の損傷など論外ですが、設備に損傷がなくても外部電源が途絶すれば、重大事故になります。11年前の東京電力福島第一原発の事故は、地震による鉄塔の倒壊で外部から電気が来なくなったこと、その上に非常用電源が作動しなかったために起こったものでした。もしもウクライナで重大な原発事故が起これば、ヨーロッパ中が放射能汚染にさらされます。戦火の下では、原発は自国民向けの核兵器に様変わりすることが明らかになりました。

原爆と原発は同じ原理

原子力発電所は、核分裂を利用する点では原子爆弾と同じ原理で動いています。原爆は大気中に一瞬に、原発は原子炉内で時間をかけてチビリチビリという違いがあるだけで、核分裂エネルギーの発生であることは同じです。その結果、どちらも核分裂生成物（「死の灰」）を生み出します。

「死の灰」は、核分裂反応の直後に人間が近づけば即死させます。危険な物質を閉じ込めるために、原発の格納容器があるのです。何らかの事情でそこから放射性物質が大気中に流れ出ると、放射能汚染を生み出し、人間を含むあらゆる生物に健康被害をもたらします。



伊方原発3号機

核兵器も原発もない社会を！

昨年1月に発効した核兵器禁止条約は、今年6月に第1回の締約国会議を成功させ、地球上から核兵器を廃絶する道筋を歩み始めました。

一方、原発は「電力の需給安定化」や「ウクライナ戦争による資源高騰」などを口実に、原発回帰の空気が醸し出されています。

いま電力不足が言われるのは東京電力管内だけです。西日本やとりわけ四国では電力は充分あります。私たちは原爆も原発もない社会を目指しています。

伊方原発をとめる会（2022年8月3日）